

日本の伝統を燈す展覧会

第6回

勝福寺寶燈展

茶道具の美

徳十茶

五、四、三、二、一、
悪魔降伏 朋友和合 父母孝養 無病息災 諸天加護

十、九、八、七、六、
臨終不乱 五臟調和 煩悩消滅 睡眠自除 正心修身



予備継灰釉山茶碗 銘・玉椿
加藤四郎左衛門景正造伝
鎌倉〱室町
径17.5cm 高さ7cm



当日、お茶席の併設を
予定しております。

一席 300円

お茶席開催時間
午前10時 ▶ 午後3時まで

平成27年

4月19日 日

観覧無料

午前9時30分 ▶ 午後4時30分

主 催 徹林山 勝福寺 会 場 勝福寺(岡山県総社市久代3438)

題字／京都仏画研究所 代表絵師 大里宗之 氏 画／林鶴山 氏

伝統を今に生かし、時代の一步先へ

宗教法人 真言宗 御室派



徹林山 勝福寺

〒710-1201 岡山県総社市久代3438 TEL 0866-96-0615

ホームページ <http://www.geocities.jp/gikooh/>



臨時駐車場

お寺の駐車場が満車の場合、
総社市消防署「西出張所」
西側の駐車場を臨時駐車場と
してお借りする予定です。そ
こから勝福寺までは徒歩で約
10分(500m)の距離です。

総社市消防署西出張所
総社市久代2635-1
TEL.0866-96-1196

〔展示を予定しております 茶道具(一部)〕

仁清写し色絵雉香合
(初代真葛香山氏造)
長さ11.8cm 高さ5cm 明治



古渡茶入
径7.5cm 高さ5.4cm



楓流水時絵棗
(難波仁斎氏造)
径8cm 高さ5.7cm 昭和



桑拭漆平棗(林鶴山氏造)
径8.5cm 高さ6.1cm 平成



赤膚焼 灰器
(元・伊木三嶺斎所持品)
径21.5cm 高さ8.5cm 幕末



赤楽茶碗
径8.5cm 高さ6cm



備前焼(初代藤原楽山氏造)
径10.3cm 高さ6.6cm 昭和



萩焼(14代板倉新兵衛氏造)
径13.2cm 高さ8.5cm 昭和



四方釜 6代名越浄味氏造
(13代大西清右衛門氏極)宝暦年間
胴16.5cm 口広12.7cm



南鐙釜(木村節三氏造)
胴16.5cm 高さ22cm 平成



窯変水差(黒井一楽氏造)
径11.6cm 高さ15cm 昭和



南鐙灰さじ
(北村静香氏造)
長さ21.5cm 昭和



砂張銅宣徳一輪生
径7cm 高さ23.1cm



古渡青磁耳付花瓶
径8cm 高さ20.7cm



備前焼 三閑人蓋置
(金重陶陽氏造)
径6cm 昭和



糸巻獅子香合
(初代小西陶古氏造)
幅6.2cm 高さ4.5cm 昭和



高野山開創1200年大法会記念事業
「中門」再建築材 檜香合
径8.5cm 高さ3.7cm 昭和



古渡染付蛤香合
幅6.5cm 高さ3.6cm 奥行3.5cm



櫻拭漆茶杓
(林鶴山氏造)
長さ8.7cm 平成



櫻拭漆食籠(林鶴山氏造)
幅24cm 高さ12cm 平成



風炉先屏風「梅花雪中の図」(林鶴山氏画)平成



風炉先屏風「蟹の図」(林鶴山氏画)平成



第六回 勝福寺寶燈展 茶道具の美の開催に寄せて

茶を喫する文化から学ぶもの



呉州陶硯(河井寛次郎氏造)
長さ19.3cm 幅10.3cm 高さ5cm

今春、勝福寺では第六回寶燈展を開催する予定です。今回は茶を喫する文化に心を寄せて、当山が所蔵しております木工芸家・林鶴山さんの作品を含む茶道具約六十点を展示・ご観覧頂きます。古代吉備大國の備中・久代において、このような展覧会が持てますことを有難く思うと共に、「文化は國の礎を作る」と考える本展の意義が世界平和の象徴となり、文化の素晴らしさを社会に提唱して参りたいと存じます。

表紙の茶碗は、鎌倉時代(二代執権・北条義時)に活躍した加藤四郎左衛門景正、通称「藤四郎」造伝の予備継灰釉山茶碗・銘・玉椿です。藤四郎という人物については学説的な裏付けはないものの、貞応二年(一二三二)に曹洞宗の開祖・道元に從つて宋に渡り、製陶を學んで帰朝し、作陶に適した土を求めて各地を遊歴しました。そして瀬戸の良土と出逢い、築窯、瀬戸焼を開いた陶祖と称されています。

表紙の山茶碗は、陶器の常識で捉えれば食膳具に分類されるでしょうか。しかし、縁あつてこの茶碗を当山に迎え入れた日、その上品な佇まい、焼成に心が吸い込まれるほどの感銘を受けました。静かに、対峙していると心はいよいよ惹かれたので、そのまま服のお抹茶を戴くことにしました。石臼で丁寧に挽かれた茶葉を碗に盛り、白湯を注いで茶を点てます。その場の空気感というのは何とも表現し難いのですが、鳳凰が宙を舞っているかのように優雅なものと化しました。心が健全な時も、病んでいる時も、茶を喫する連の所作からは精神の大切さが伝わり、今、私達もつとも忘れかけている人としての心だと教えられる思いが致します。古来より日本人は文化を愛し、仕来りや伝統を重んじ、自然美に心を寄せてきた情感深い民族です。

しかし昨今、目に見るもの、耳で聴くもの、世間に流れるニュースは心の痛む内容が増加傾向にあり、社会が今後どの方向へ進むのだろうと危惧すら感じるようになりました。一方、その中において、近年は世界中の人々の多くが「日本」という國の豊かさや平和さに憧れの念を抱いている感を受けます。なればこそ、先人達が重んじてきた精神に思いを致し、世界中の人々の模範となるように努めることが、今を生きている私達の責務ではないでしょうか。その心を正す方法として、文化に触れる生活をするのが遠回りのようで、実は最も近回りなのではないかと思っています。

例えば、部屋に輪の花を生けてみます。私は野花や草木が好きですが、境内に咲く四季折々の花を常に生けています。花姿がもたらす自然美から、感化させられることは少なくありません。自身の心の安定が精神活性化の糸口となり、原動力となるのです。茶器類は贅沢品ではありませんが、何かしら愛玩の道具があれば楽しみは二層広がります。平素、まずは身近な自然美を生活に取り入れることから初めてみて下さい。自身の心が変われば周囲の環境が変わり、環境が変われば周囲が感化され、一人ひとりの清浄な心はやがて大きな平和へ繋がっていくことでしょう。

最後に、寶燈展の開催にあたり、種々の御協力を頂きました勝福寺檀信徒並びに、関係者各位に厚く御礼申し上げます。

平成二十七年春

徹林山勝福寺 住職 江原義空

合掌

その他の
催しもの

■ 写経体験(予定)
本堂において
一奉納 1,000円

■ 将棋コーナー
囲碁コーナー
(予定) 無料



次回「寶燈展」は
林鶴山氏
「木工芸の美」
を予定しております。